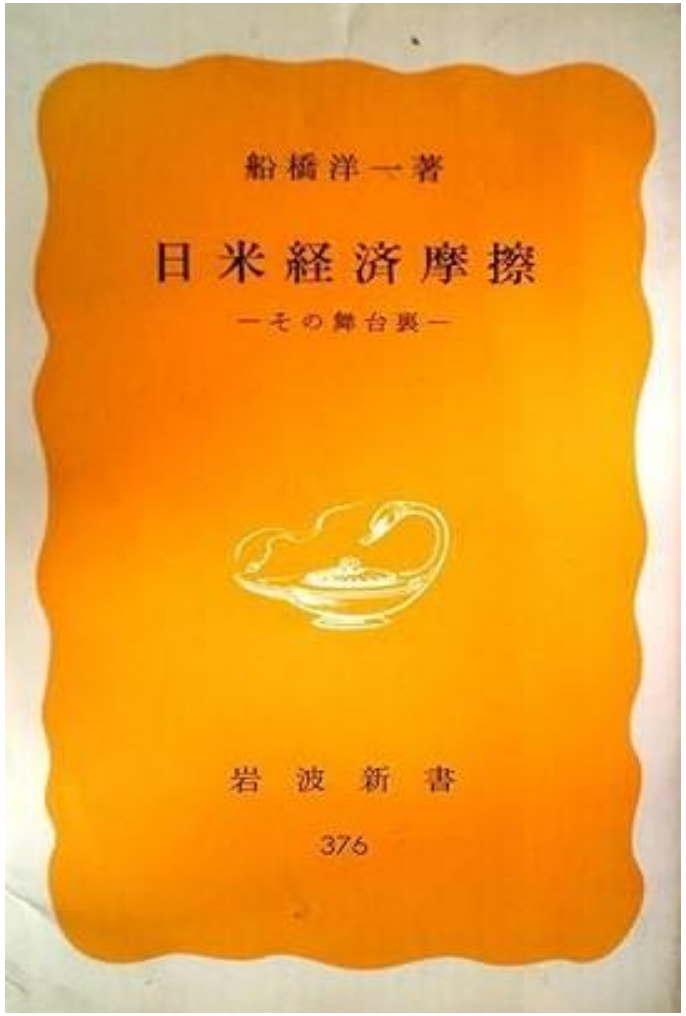
舟橋洋一
『日米経済摩擦』
(岩波書店,1987,232ページ)

220781075
梅本 昇波



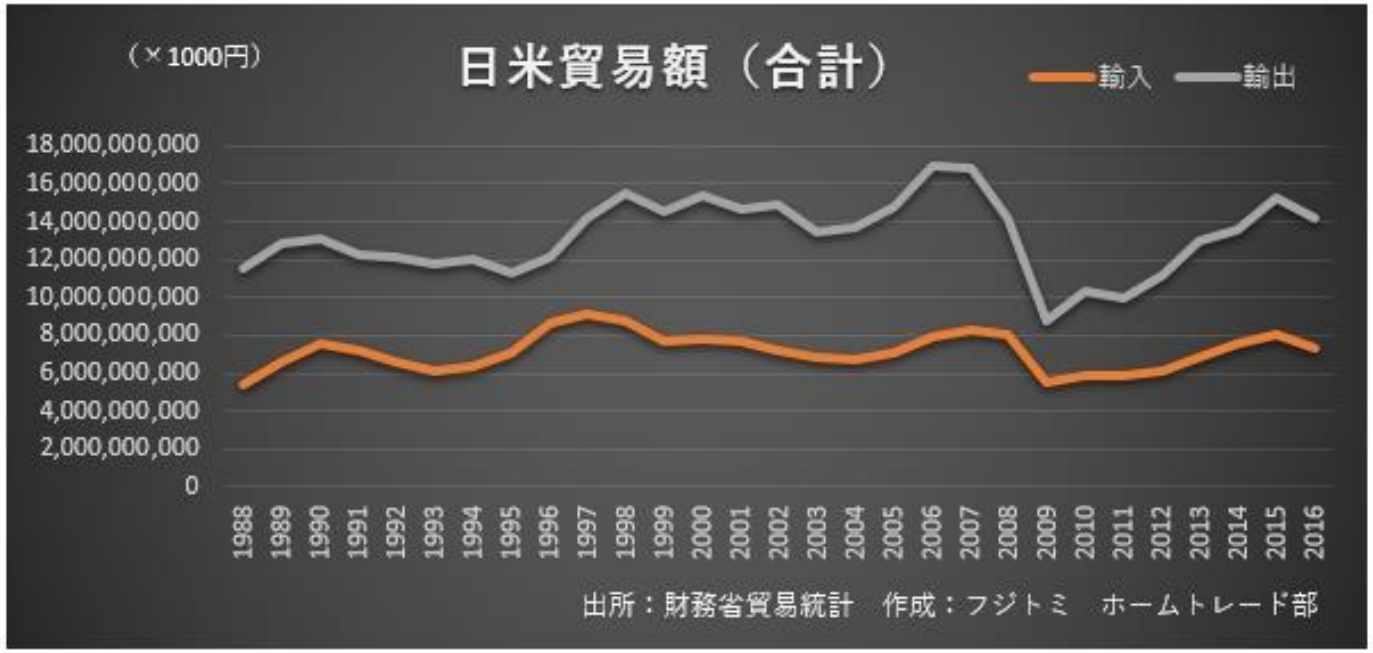
目的

1.貿易の不均衡による対立

2.政治との関係

3.相互依存の関係の根強さ

第1章 貿易収支の推移



A.主な輸出入品目

日本⇒米国：自動車

米国⇒日本：穀物

(大豆・小麦等)の食料

第2章 なぜ米国の貿易赤字が拡大しているのか

A.米国の財政赤字によって高金利に

①円安・ドル高

②米の輸入が有利となる

③日本製品の値段が安価になるため米国の輸入増加

⇔米国製品の価格高騰による日本の輸入減少

第3章 日米間の自動車産業

A.1970年代：石油危機発生

⇒米国の消費者が燃費の良い小型車の需要の増加

⇒日本車は条件に合致、自動車輸出が増加

⇒米ゼネラル・モーターズやビッグスリーの業績悪化によるリストラ

B.1978年：日本が自動車関連の関税を撤廃

C.1980年：日本車の生産数が世界１位

⇒輸入制限のために米国際貿易委員会へ提訴

D.1981～93年：日本政府が対米輸出台数を自主規制

E.1982年：ホンダが米国での生産へ

F.1984年：トヨタ自動車とゼネラル・モーターズが合同で工場を米国に設置

G.1992年：日本車メーカに米国製の部品を使用、生産の要請⇒関税の増加

H.2019年：日米貿易協定の発効

I.2023年：日米貿易協定改正

J.日本の関税引き下げが遅れた理由

- 1980年代は日本の政治変化が発生
  ⇒官僚指導型から党中心型へ
- 日本の関税水準は低い
- 非関税障壁(NTBs)は他の先進工業国と同水準
- 他国に対する輸入割当(IQ)・輸出自主規制協定(VRA)少ない
  ①日本の市場アクセスは良い
- 1人が関税引き下げを行おうとしても党が抵抗
  ②保護主義的な動きが強まる

K.国際分業による相互依存

例：飛行機

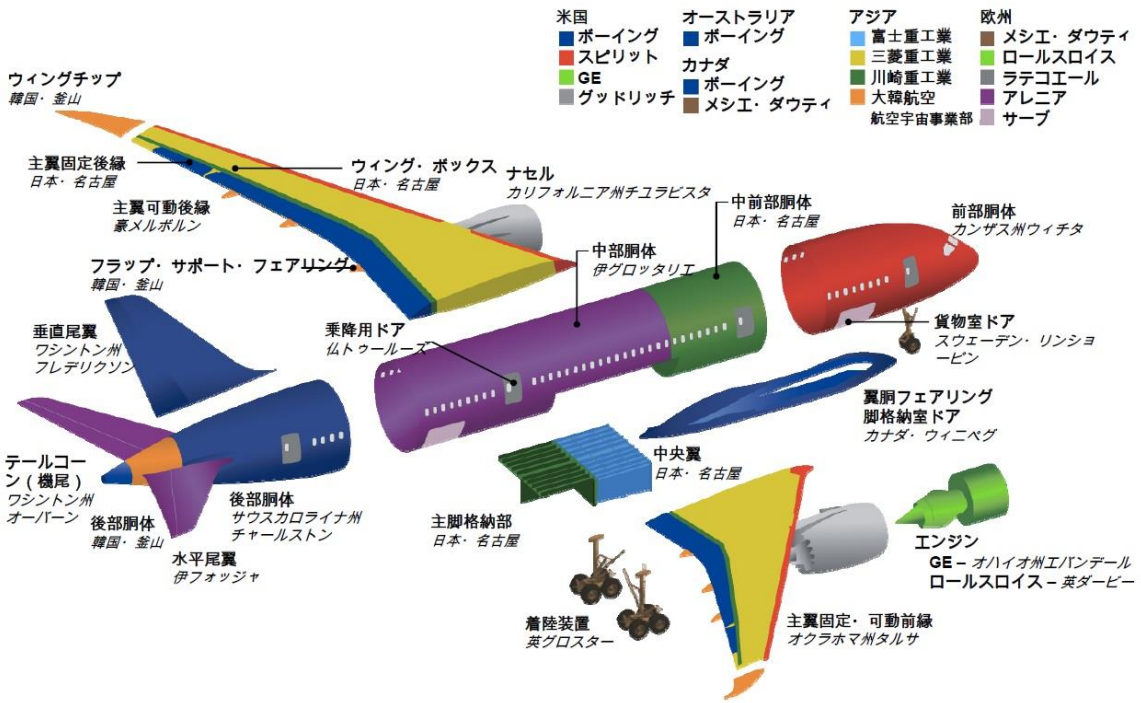
部品は異なる国で生産

(米国：後部胴体・垂直尾翼、日本：センターウィングボックス)

⇒貿易規制の強化は

自国の不利益にもつながる

⇒輸出入規制は難航



結論

1.交渉や合意を試みる

2.国際化社会の貿易問題は複雑化

3.経済・政治的関係に影響を与える

4.相互理解や妥協が必要で容易でない

<参照>

- 日米自動車摩擦　1970年代から繰り返す歴史 - 日本経済新聞 (nikkei.com)
- 9.jpg (1274×768) (neptunegroup.sakura.ne.jp)